

第6回自動車整備技術の高度化検討会 議事概要

1. 日時：平成24年12月4日(火) 15:00～17:05

2. 場所：経済産業省別館 10階 1020号会議室

3. 出席者：

須田委員、古川委員、廣中委員、松井委員、帯刀委員、野口委員、渡辺委員、福内委員
中嶋委員、高橋委員、杉山委員、森本委員、今田委員代理、岩崎委員代理、島委員

4. 議事概要

(1) 環境整備の方向性について

事務局から論点について資料3により、福内委員、中嶋委員、今田委員代理からIT化、ネットワーク化の推進について資料4により、野口委員、廣中委員から国際化対応について資料5により説明があった。また、議論の内容等を反映して、次回の検討会に向けて、事務局で報告書骨子案の作成を行うこととした。

主な意見等は次のとおり

・ 古川委員

IT化することによって難しくなるようなニュアンスに取れる。パソコンが使えないような人でも簡単に利用できるという観点での整理の仕方があるのではないか。

・ 高橋委員

ディーラーを除くアフターマーケット市場において工場のIT化が進んでいない。コストパフォーマンスが不明確と捉えられているといった原因ではないか。

整備要領書には、用語等の統一表記が必要であるが、「提供情報はこれから検討する。責任が負えないので範囲は限定される。」では專業整備事業者は整備ができない。情報開示は進んでやっていかなくてはいけないと思う。そういった面ではネットワークという外注ができるようなところ、作業サポートを変更できるようなものをやってみてもよいのではないか。

全てのスキャンツールに全てのソフトが入っている必要はなく、入庫してきた車両の修理や故障診断の情報を見られる仕組みができればよいのではないか。

・ 廣中委員

整備要領書について、3D化やメーカー系スキャンツールとの自動連携が始まって、さらにオリジナル化が進んでいるため、簡単に統一することは難しい。インデックス化を進めて項目同士で適合していくのが実現的ではないか。

メーカー系スキャンツールでは故障コードから診断フローに繋がる仕組みを作ったが、熟練した整備士では最初から診断フローに従わなくても理解できるため、

逆に効率が落ちる。各整備士のレベルに合わせた誰にでも対応できるような仕組みにしなければ使いにくいものになってしまう。

- ・ 中嶋委員

整備要領書は検索できるデータであれば、全てを統一しなくてもよい。キーワード検索ができる仕組みをF A I N E Sの中で実現するというのは、一つの解決策である。

- ・ 古川委員

データ量が莫大なものから自動的に識別して、必要なものを取り出すという情報処理技術が発展しているため、利用できるのではないか。情報科学の専門家の意見も聞くべきである。

- ・ 中嶋委員

莫大なデータを扱うには、車の制御そのものを理解していないと加工できないので、すぐにはできないことだが考えていかなければならない。まずは情報を電子化するのが大前提でそれを集める仕組みが重要である。それを第一ステップにするべきである。

(2) 人材育成の方向性について

- ① 事務局から論点について資料6により、杉山委員、森本委員、渡辺委員、廣中委員から一級整備士資格者の活用について資料7により、渡辺委員、事務局から新技術に対応した整備士資格制度のあり方について資料8により説明があった。また、議論の内容等を反映して、次回の検討会に向けて、事務局で報告書骨子案の作成を行うこととした。

主な意見等は次のとおり

- ・ 杉山委員

今回提案したのは現状の一級整備士でなく自動車検査員の要件を十分に習得した新しい一級整備士ということである。

制度全体のメリットの中において、自動車検査員となる能力をもつ整備士が増えるということは、整備品質が上がるということになる。

また、教科書の内容を検討する組織については、メーカーの関係者をメンバーに入れていただきたい。

- ・ 中嶋委員

整備士の種類でガソリンとディーゼルとで分けているが、EVなど今後新しく出るたびに分けていくのか。その必要はないのではないか。

- ・ 島委員

原動機の種類によってはEV以外にも将来考えられるため、細分化していくのではなく、一定のまとまりを持った形にしていく方向になると思う。装置についてはそれぞれの専門エリアについて活躍のニーズがあり、新しいものが出た際に

再構築することはあり得る。

- ・ 帯刀委員

業界のことだけでなく整備士のことにも考えるべきである。

工場側も一級整備士を持たなくてもよいので、二級整備士にないものを持たせないと一級整備士は増えないし、経営者側も求めないと思う。

- ・ 杉山委員

現状では一級に優位性がないので高校生、親、先生に一級の良さが中々アピールできない。このような状況の中で一級整備士資格者に自動車検査員資格を付与することは、学生や学校に対して説得力がある。

- ・ 廣中委員

一級整備士にしかできないものとしてしまうと、現在の一級整備士の数で全ての工場を回すことはできないため、自動車検査員という案が出された。

一級整備士や自動車検査員を広く世の中に認めてもらうことが必要で、そのためには国から認定してもらうのがよい。例えば一級指定工場や一級認証工場といった新しい認定制度と一緒に展開すると、事業主も一級整備士がいるから客が来るということになり、一級整備士を評価しやすいのではないか。

(3) その他

高橋委員から以下のことが報告された。

汎用スキャンツールについて、平成23年度の機械工具協会全体の販売台数は55,908台であり、前年比344.9%となった。現状、販売が伸びているほとんどがリバースエンジニアのものである。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局から資料9に沿って説明を行い、第7回検討会を2月頃に開催することで了承された。